坂の上通信

令和二年四月二十四日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文芸部（四〇三演習室）

感染予防 取組さまざま

換気で「三密」を避ける

普通科高校の美高の活動では、必ず集団行動を伴う。それでも密閉・密集・密接のいわゆる「三密」を少しでも避けるため、休業前からできる限りの取組をしてきた。全校体制で取り組む感染予防の工夫を追った。

4月当初より生徒に対しては可能な限りマスクを着用するよう呼びかけ、朝のＳＨＲでの健康観察および検温チェックを徹底した。

生徒一人ひとりに健康観察カードと保管用クリアファイルを配付し、毎朝自宅で検温。保護者のサインをもらって学校に持参し、各クラス担任と副担任で確認するという方法をとっている。検温を忘れた生徒に対しては、廊下で待機している副担任が対応する。

教室の前や室内には消毒用のアルコールスプレーを設置しているほか、授業は換気のため、教室のドア・天窓・地窓および廊下の窓を開放して行っている。

また食堂の席数は現在大幅に減らされており、間隔をとって利用するようになっているほか、すべての席と席の間には仕切りが設置されている。

従来は弁当等を持ち込んで食べていた生徒もいたが、座席数の減少にともない、食券を購入した人のみが利用するよう強く呼びかけている。

再開に向け様々な準備をしている。上から換気の様子・廊下のアルコールスプレー・食堂の仕切り。

特別号

現在新聞部の活動は十分にできていませんが、休業期間中は「特別号」を作成し、毎週金曜日にＨＰ上で紹介します。

ピンチはチャンス

進路指導部より

休業に伴い、授業がストップする。特に3年生は受験を控えているため、教科書の内容を終えることができないことは、共通テストや個別試験対策に取り組む時期が遅くなることを意味する。1・2年生も同様である。これは大きなダメージだ。

しかしものは考えようで、この期間はこれまで学習してきた（1年生は中学校の）内容を復習し、基礎基本を身に付ける大きなチャンスである。この休業を良い機会と捉えて、是非とも復習に取り組んでほしい。まだ見ぬ全国のライバル達に差をつけようではないか！

講堂行事にも影響

全校生徒が集まらないよう、式典等にも影響がでている。始業式は講堂に集まらず放送で行われたほか、離退任式も中止。この春転勤された先生は、休業措置の中、生徒に別れを言えないまま美高を去ることになった。

舟入高校に転勤された佐伯先生のコメント

生徒の皆さんにご挨拶もできずに美鈴が丘を去ることになってしまったのは悲しい限りです。この学校の、生徒も先生も校舎も、みんな大好きでした。ありがとう。さようなら。

登校日が中止

5月6日まで

政府の緊急事態宣言を受け、各学校において設けられていた登校日の中止が決定した。

登校日はもともと、休校期間中の学習支援や健康管理のために学年ごとに設定されたもの。美高でもクラスを3つに分けて別室に通すなど、三密を避ける工夫をしながら準備が進められていた。

今回の登校日の中止を受け、必要な課題や模擬試験などは各家庭に郵送されることになり、20日（月）には、先生方がほぼ総出で課題の印刷と封筒詰めが行われた。

今回の決定により次の登校は最短で5月7日となった。

なお現在各教室は施錠されているため、入室することができない。学校に私物などの忘れ物がある場合には、必ず事前に担任の先生に連絡をとり、また登校した時にはまず事務室を通して先生を呼ぶことになっている。

封筒の袋詰めをする先生方（2学年）

Mノート活用術②

前回の《レッスン1》では分かっている予定をすべて書き込み、「自分の手帳」を作りました。

今回は手帳のもう一つの使い方、「予定」ではなく「記録」についてお話しします。

《レッスン2》昨日の自分の生活を振り返り、次の①～⑤を毎朝書く。

①朝起きた時刻
②学習を始めた時刻
③夜寝た時刻
④学習した時間
⑤スマホを利用していた時間

よく「規則正しい生活を送りましょう」と言われますが「よしやろう」という気持ちだけではなかなか難しいものです。また、規則正しい生活を送っている「つもり」になってしまうことも問題です。

それを防ぐのが、毎日の「記録」です。右の①～⑤を書くことで時間が「見える」ようになりますから、自然と生活リズムが整ってきます。

ごまかさずに、そして毎日記録するのがポイントです。学校が再開したら、朝のＳＨＲで書くようにしましょう。（続く）

記入例。起床・学習開始・就寝の、いわゆる「３点固定」を意識してみよう。

美・鈴・鈴・鈴

休業が開けたと思ったらまた休業。しかも休業が終わる5月6日はＧＷ明けである。とりあえず切りのよい日を設定した、という印象が強い。5月に入って劇的に状況が好転する材料は、今のところ見当たらないからだ

▼広島県の感染者数も日ごとに増加し、長い長いトンネルの中を歩かされているような、そんな不安で落ち着かない日々を過ごしている人が多いだろう。三密を心がけ、外出するときは常にマスクを着けているが、それでも感染しない・させない保障はどこにもない

▼デマ・買い占め・便乗など、コロナに関連したニュースも暗いものが多い。運悪く感染してしまった人への中傷や差別も問題になっている。考えられる予防を全てするのは当然だが、同時に私たちは覚悟を決める時期にいるのかもしれない。感染してしまった人が身近に出たとき、その人を必要以上に恐れない、決して差別をしない、そして治った後は何事もなかったかのように普通に接する、そのような覚悟を　▼国難とも言える深刻な状況だからこそ、一人ひとりがじっと耐え、人としてあるべき道をしっかりと考えたい。それが高校生の戦い方だ。